

## 崇善・富士見地区

### ① 平塚宿脇本陣

MAP G-7

江戸時代、宿場には幕府公用人や大名の宿舎として本陣が設けられていました。本陣の補助的な役目をしたのが、脇本陣です。脇本陣は、その宿場の中で本陣に次ぐ有力者が経営しましたが、屋敷地や建物の大きさは本陣に及びませんでした。また、脇本陣は本陣と違って、平常時は一般の旅籠としての営業も可能でした。

平塚宿の脇本陣は、享和年間(1801～03)頃の宿場の様子を描いた「東海道分間延絵図」には、西組問屋場より西に描かれていますが、天保年間(1830～44)には二十四軒町の北側のこの地に山本安兵衛が営んでいました。

### ② 平塚宿高札場

MAP G-7

高札とは、幕府や領主の法令や通達を書き記した木の札です。その高札を掲示した場所が高札場で、各宿場や村々に設けられていました。通常、土台部分を石垣で固め、その上を柵で囲み、高札が掲げられる部分には屋根がついていたといえます。

平塚宿の高札場は、二十四軒町のこの地にあり、規模は長さ二間半(約5m)、横一間(約1.8m)、高さ一丈一尺(約3m)でした。平塚宿には、平塚宿から藤沢宿、あるいは大磯宿までの公定運賃を定めたもの高札なども掲げられていました。

### ③ 平塚宿東組問屋場

MAP G-7

平塚宿は、東海道五十三次の宿場として慶長6年(1601)に成立しました。宿場は、旅人が休憩するための茶屋や宿泊するための旅籠といった施設が整っているばかりではなく、諸荷物の継立(人夫や馬を取替える)も重要な役割でした。

こうした人馬の継立や御用旅宿の手配などの宿駅の業務を取り扱う場所を問屋場といいました。平塚宿では問屋場が二か所あり、西仲町にあったのを西組問屋場、二十四軒町にあったのを東組問屋場といいました。

### ④ 八幡大門通り・浜大門通り

MAP H-7

八幡大門通りは八幡神社(現平塚八幡宮)の表参道で、東海道までの区間を指します。明治20年(1887)平塚停車場(現平塚駅)が開業し、平塚新街に商店が建ち並びはじめました。最初は停車場付近の厚木道と浜大門通りが繁昌し、次いで八幡大門通りに中心が移り、大正中期から東海道筋に変わりました。

浜大門通りは八幡大門通りから南へ向かう通りで、昔は海辺まで続いていました。平塚停車場ができてから、この浜道は遮断され、商店が建ち並ぶようになると“停車場西通り”と呼ばれ繁昌しました。



### ⑤ 宝積院の木造薬師如来立像

MAP F-7

本像は、『新編相模國風土記稿』宝積院「薬師堂」の条に、「梵天社(現・八雲神社)の本地仏を安ず」と記されている像です。秘仏で、寛永の4月5日～15日に開帳されます。

総体にどっしりした量感を備え、男性的な顔立ちで張りがあります。衣はひだの刻出も複雑で、特に腹部から足部に流れる衣文表現には写実性が認められ、背面も省略されていません。造立時期は、室町時代前期と思われます。



## 中原地区

### ① 古代東海道駅路跡

MAP H-5

古代の律令社会では、中央の都(藤原京・平城京・長岡京・平安京)と各国を結ぶ駅路が整備されていました。強力な中央集権国家を支える大動脈がここ平塚を通過していたというわけです。

駅路には30里(約16km)毎に駅家と呼ばれる施設が設置され、公用の連絡や公文書通達の便を図っていました。また、緊急時の軍事用道路としても大きな意味を持ちました。



### ② 中原上宿遺跡

MAP G-5

このあたりには、弥生時代から平安時代にわたる18基の竪穴式住居址が確認されました。沖積低地では初めての弥生時代の住居址が検出されたこと、奈良時代の住居址群がまとめて調査できたことは、神奈川県内でも特筆に値するものです。



### ③ 得願寺の礎石(基壇)

MAP G-5

この石は山王社(現日枝神社)の別当寺だった得願寺の礎石です。山王社が「御殿後」の地から現在地に遷座されるに伴って得願寺は創設されました。しかし、明治政府の神仏分離政策によって廃寺となりました。この礎石は、日枝神社の鐘樓の礎石として用いられていたもので、平成15年の改修工事で発掘されました。

得願寺には明治6年(1873)、教育施設として崇広館が開設されました。これが現在の中原小学校の原点です。



### ④ シロミ塚(城見塚)

MAP G-5

この付近は、かつては標高16m前後の小高い丘(塚)になっていました。この丘に沿って大山街道が通り、近くを中原街道が通る交通の要地で、現在の中原小学校付近にあった中原御殿の造営に伴って、見張り番が置かれていたのではないかと考えられます。また、「志志み塚」と呼ばれていたという記録もあり、その「志」が「ろ」に置き換えられて「シロミ塚」となり、「城見塚」となったという説もあります。

### ⑤ 中原宿高札場跡

MAP G-6

高札場とは幕府などから出された禁令を木の札に書き掲示した場所のことです。

中原宿の高札場は、徳川家康が築いた中原御殿に向かう大手道と中原街道の交わる位置に設けられていました。「中原御宮記」(長谷川雪堤画)を見ると土台を石垣で固めて柵を結び、高札が掲げられる部分には屋根がついていました。



### ⑥ 中原御殿と遺構

MAP G-6

中原御殿

徳川家康が鷹狩りなどの折に休泊所とした中原御殿が、中原小学校を含む一帯にありました。御殿の規模は東西七八間、南北五六間で、四方に幅六間(約10m)の堀をめぐらし、東側を表としていました。

御殿が造られたのは慶長元年(1596)ともいわれますが、諸説があります。寛永19年(1642)に修復されますが、明暦3年(1657)には引き払われました。その後、跡地には松や檜が植えられ、その中に東照宮が祀られました。その様子は「中原御宮記」の巻頭に長谷川雪堤の筆によって描かれています。



中原御殿と遺構

明暦3年(1657)江戸の大火の後、御殿は引き払われたといわれています。ここから約500m南西にある善徳寺の山門は、御殿の裏門を移築したものだとも伝えています。御殿は土塁と堀が巡った城塞で、土塁は高さ三尺(約90cm)、堀は幅六間(約10.9m)、深さ一丈八尺(約5.5m)を測り、要所は石垣が積まれていたといわれ、堀を埋めるとき、たくさんの屋根瓦が出土したといえます。



御殿に係る遺跡の発掘調査は、現在までに3回行われています。

小学校の体育館建設に伴う調査では、古代から近世の井戸跡・溝状遺構・配石を伴う硬化面などが検出されました。このうち、35号溝状遺構はL字型に屈曲する大形溝で、出土遺物等から御殿に伴う遺構と考えられます。

消防団第11分団の庁舎改築に伴う調査では、御殿を囲む堀の一部と考えられる溝を検出しています。

御殿D遺跡第1地点では、堀と考えられる幅5m程の溝を検出していますが、御殿の時代より古い可能性があります。

### ⑦ 善徳寺の絹本着色 法然上人像

MAP F-6

善徳寺は、善徳徹(1574没)によって開創された浄土宗の寺院です。法然上人(1133-1212)は浄土宗の開祖で、その肖像画は多く描かれており、本図もその一つです。

本像の制作年代は、全体の描法や用いられた絹の特徴などから、室町時代前期と推定されます。本像のように、中世まで遡る法然上人像は神奈川県下では極めて珍しいものです。



### ⑧ 中原御林

MAP H-6

徳川家康は中原に御殿を造営し、鷹狩りなどの折りに休泊所として利用しました。東海道方面からこの御殿が見透かされるのを防ぐため、慶長6年(1601)、徳川家康は代官の伊奈忠次に命じて、中原御殿の周囲に植林させました。これが中原御林のはじまりです。

中原御林は全部で16か所あり、総面積は一二六町九反二畝五歩(約126ha)でした。現在総合公園となっているこの地もほとんどが御林の中にありました。明治時代になって御林は官地となり、その後、海軍火薬廠の用地となりましたが、現在は総合公園として多くの市民に利用されています。